

第5．リビングでの温泉談義

1．温泉談義のスタート！

1品ずつは少量でも、時間をかけながらゆっくり食べれば結構満腹するもの。それが日本の会席料理の特徴？それはともかく、私は夕食後の部屋に戻っての「温泉談義」に向けて酒とつまみが必要かなと心配していたが、莫言がドクター・ストップによって一切酒を飲まないため、その配慮は不要となった。

しかし、酒を飲みながらの評論が大好きな毛丹青と坂和のリードによって、話題はあちこちに広がり酒の勢いも加わって内容豊かなフリートーキングに。
(写真第5 -)

以下そのポイントを紹介しよう。

2．話題の中心は高速鉄道脱線事故！損害賠償は？日本なら？アメリカなら？

(1) 本日の「温泉談義」最大のニュースは、毛丹青がアイパッド情報によって入手した、死亡者(の遺族)に対して1人50万元(約600万円)の賠償金を提示したというもの。これは普通の人身損害の約2倍らしいが、このようなやり方には当然莫言も毛丹青も異論がある。交通事故の事件を37年間にわたって多数扱っている私にとって、こんな賠償問題はお手のもの。また、日本ではこんな大規模な事件が起こると直ちに被害者(遺族)たちが連絡を取り合って協議し、有能な弁護士を捜し出して弁護団の結成を依頼し、集団での交渉から提訴という流れになることが多いが、さて中国では？もちろん、日本における賠償額算定の理論、とりわけ逸失利益の計算方法は「蓋然性」を基礎としたもので、ホントはワケのわからないもの。裁判の世界では、死刑制度を考える時「人間の命は地球より重い」という価値観があるが、他方では「人間の命など屁のようなもの」という実態も。

(2) あの列車に乗って死亡した日本人は1人もいなかったから、日本人的な損害賠償理論の模索はこの際問題にならないが、毛丹青の情報によればアメリカ人乗客が2人死亡したらしい。多分これは一律50万元(後日に91万5000元に引き上げられ、7月31日には40人中19人が示談済となった)とは別枠で処理されるのだろうが、最近何かと競い合いの多い米中関係の中、アメリカ人(遺族)からの損害賠償は？アメリカには懲罰的賠償という制度があるから、アメリカ人被害者の遺族が裁判をやれば、ひょっとして天文学的損害賠償額になるかも。ちなみにジュリア・ロバーツ主演の『エリン・ブロコビッチ』は、アメリカ最大の公害裁判を映画化したものだ。

(3) 日本で連日報道されている菅直人総理降ろしのニュースはもう聞き飽きたから、しばらくは中国のこのニュースから目が離せない。(写真第5 -)

3. 毛丹青流、メディアの活用とは？

話題は列車転覆事故から次第にメディアの活用論に移ったが、ここからは毛丹青の独壇場。

毛：坂和も愛読している月刊誌『人民中国』の読者は年配者が多いから、パブリシティ的な効果は薄いかも？私が今年3月から発刊し始めた雑誌『知日』で、「毛丹青の仲間たち」のようなページをつくることも検討しよう。

坂和：今年6月、坂和が朝日新聞の「ニッポン前へ委員会」の論文募集に「震災復興担当大臣を国民投票で！」というテーマで論文を応募したが、残念ながら落選した。そこで『WILL』の編集長である花田紀凱氏にその論文を送っているが、さてどうなるか？

毛：『名作映画には「生きるヒント」がいっぱい！』の中国語版の製作もそうだが、坂和のものや莫言のものパブリシティを、体系的に3年先、5年先を見通しながら考えてみたい。9月、10月にもいろいろとイベントがあるので、また一緒に企画を検討したい。

4. 莫言流の「半夢半醒」とは？

しばらくの間1人でパソコンに向かっていた莫言が、それに飽きて(?)毛丹青と坂和の話題に入ってきたところで、「温泉に入るといいアイデアが浮かんでくる」という話が莫言から出されたため、そこから再び話題が盛り上がることに。

坂和：アイデアが浮かんだときにメモしないと忘れませんか？

莫言：最近になってメモするようになった。記憶が曖昧になるので……。時には夢でみたことを目が覚めるとすぐに原稿を出して記録する。最近は頻繁にある。夢の中で興奮して汗だくになったり……。

坂和：私も本当に大きな事件を抱えているときには頭の中にいっぱい考えがある。そんな時は、夜寝ていても、頭の中で一生懸命書面を書いている。そこでパッと起き出して、書いておかなければ忘れる、と思って書く。だから、あれはきっと夢を見てるのか、幻想をみているのか、という世界が出来ている。以前は朝になっても覚えていたが、最近は忘れるので必ずメモしなければダメ。

莫言：『半夢半醒』が一番いい。半夢半醒とは半分夢で半分現実の世界ということだが、理屈とか論理とかはなしだ。現実にはあり得ない話を記録することになる。私のデビュー作『あかかぶ』は夢から目覚めて記録して、書きためた小説だ。(いかにも莫言流のワールドに……)

坂和：私たちも子供の頃は『月にウサギがいて餅を突く』ということをして

いた。クリスマスでもサンタクロースがプレゼントを持ってやってくるということを、小学校低学年まで信じていた。そういう経験は毛さんや莫言さんにはないのか？

2人：それはない。

坂和：そういうことは日本だけです。クリスマスはアメリカから入ってきたものだし。ただ、子供の時は信じていても、成長しどこかで現実が見えてくるとあれもこれも嘘だということになる。だから今62歳になって、半分現実半分夢という世界の中で生きている人はかなり変な人だとも。
(皆爆笑)

莫言：できるだけ長い時間、子供の心を持つことがいいことですね。(全員の意見が一致?)

5. 弁護士の役割は？日本の現状は？

(1) まず法律の役割について

毛：弁護士が「夢」をみるときは、きっと法律用語ばかりだと思いますね。

坂和：そんなことはないですよ。現実にお金を稼ぐことでは法律を使いますが、他では使いませんね。私はあまり法律に興味がないですから・・・。(皆、爆笑)・・・法律は道具として使いこなすものなのです。

莫言：案件としてぴったり合うような法律がないときもあるので、それが弁護士の才覚だと思うのです。

坂和、毛：そうですね。

(2) 次に債務の履行や強制執行について

莫言：中国では、今おかしな現象が起きています。例えばAさんがBさんに10万元支払わなければならないとすれば、支払いを拒否ということがたくさんあります。日本ではどうですか？(との問題提起に対して)

坂和：日本ではありません。約束は守るものということが当たり前です。しかし、お金がなくて払えないということはたくさんあります。だからお金があっても払わないということは基本的にできない。

莫言：中国では判決は出てもその実行は出来ません。だから中国の裁判所では強制執行をします。

毛：日本でも同じですか？

坂和：いえ、ないです。日本では(その形は)ありません。そのようなことをするのはヤクザです。裁判所の世界とヤクザの世界は違います。ヤクザの世界では報酬は半分というのが常識です。だから日本では2割司法と言われていました。

(3) 坂和が日本の司法制度の問題点を解説

坂和：日本は三権分立だけど、司法の役割が非常に低いと。社会的な紛争が10あっても裁判による解決は2割しかないということです。そこで司法改革というのが2000年くらいから始まって、要するに「司法の拡大」ということを進めました。つまり「2割司法では駄目だ。せめて半分くらいにしよう」と進めることが「司法改革」です。それをするには、弁護士は毎年500名ずつ増えるだけだったが、それでは少ないので、3000名に増やすということです。今、現在2000名になりましたが、それでも(司法の)拡大につながらないので弁護士になっても稼げない。だから現在2000名の司法修習生、つまり弁護士の卵には就職口がありません。それは雇主にとっては買い手市場です。

当事務所も来年から弁護士2名を雇います。年収は修習生で300万円ですが、弁護士になれば一応平均500万。しかし、当事務所では最初300万、2年目500万、3年目700万。3年間ずっと働いたら平均して世間と同じとなります。要するに1年目の300万で仕事をこなせなければ、使えないならクビということになります。本当は10年前から司法の領域が拡大して、弁護士が増えても皆それぞれが活躍して儲かるというイメージでしたが、現実には正反対です。

莫言：つまり(現在、弁護士が)多すぎる訳ですか？

毛：仕事が、少なすぎるのですか？

坂和：両方とも言えます。つまり、数が多過ぎるという面と仕事が無さ過ぎるということです。つまり、日本の今日的な問題は、全てが縮小している。人口も減っている。経済も小さくなる。子供はどんどん減っています。だって結婚しない人が増えているのだから。

莫言：そうですか。(中国は)早く日本のようになりたいですね(笑)。

坂和：ひとりっ子政策ですね(笑)。だけど、日本は、20年後5000万人・・・ですか。

毛：一億切るということ？

坂和：いや、もっと切ります。半分になるでしょう。だから、縮小した社会での生き方を決めればいいのですが、日本は初めての体験だから・・・。

莫言：そうですね。

6. 人間が猿になるについて文明の果たした役割？

調子に乗ってきた坂和は、さらに坂和流の「法律のあり方論(?)」を大胆に問題提起。

坂和：話がちょっと変わります。先ほどの話の延長ですが、私は弁護士です。

弁護士はみんな法律を守りなさいと言いますが、私は法律を守る気があまりありません。その際たるものが、いつも言っていることですが、中国ではみんな車が走っていても（横切って）人が渡ります。その競争というか、自分の工夫で渡ります。日本では信号機があってそれに従って渡ります。日本人は真面目に（信号を）守ります。それは交通が混雑している現実で、交通事故を減らすにはいい工夫ですが、それが行き過ぎると、夜間、大きな道路で車が全く走ってないのに、信号が赤だから停まっているというバカみたいな姿になる。そうすると、「君は、アホか」と思うのです。

莫言：そうですね。

坂和：つまり、人間が道具を作って便利に活用するというのが本来だけれども、逆に人間が道具に使われるという姿になっている。「猿が人間になるについて労働の果たした役割」というマルクス・エンゲルスの理論がありますが、現状はその逆です。

莫言：そうですね。

坂和：それが、今は、「人間が猿になるについて文明が果たした役割」、つまりどんどん人間が猿になっている。人間の判断能力がどんどんなくなっていると言うことです。たとえば、どうやって彼女を口説こうか、という工夫が全くないのです。

莫言、毛：（笑）

坂和：「転生夢現」でも口バが雌口バをどうやって口説こうかという場面が登場しますが、そういう欲が全然無くなっているのです。

莫言：人間は猿より劣っているという意味ですね。

坂和：そういう、今の日本の傾向が非常に怖い（状況）です。太怕了（タイ・パー・ラ）。（笑）

莫言：中国でも同じです。独裁でしょ、それからいわゆる、権力集中。悪いところもいっぱい持っているということですね。

毛：勿論、悪いこと、効率もそうですね。効率的にやろうと思ったら全てやるということも……。悪いところもいっぱい持っています。

坂和：高速鉄道事故の解決は効率はいい……。ですね。

莫言：5年かかるという鉄道建設計画を2年間で作ってしまったわけですから。

毛：さらに、人が死んだら一週間目には片付けるという……。

坂和：そうですね。

莫言：法律というのは人間社会の最大限の自由を求めようとしていること。自由というのはある程度制限しないと本当の自由はもらえないというのが多分法律の基本にある。その度合いですね。

坂和：人間社会が複雑になるから、法律が必要なのです。王様がいて、王様が支配するときは法律は単純でいい。秦の国が出来たときに、秦の始皇帝が作った法律は単純そのもの。

莫言：王の言うことが法律ですから。

坂和：キリスト教でも汝、殺すなかれ、犯すなかれ、盗むなかれなどの「十戒」だけで全て OK ですからね。十戒だけで、可以（カー・イー）、（笑）

7 . ノルウェー乱射事件の犯人には、白檀の刑が妥当？

いろいろなテーマで話が盛り上がる中、テレビは7月22日にノルウェーの首都オスロの政府庁舎前で発生した爆弾テロ事件に続いて、その数時間後に首都の北西約35キロの湖に浮かぶウトヤ島で男が銃を乱射したため少なくとも80人が死亡した事件のニュースが流れていた。そこで、さてこの犯人の刑罰は？それは当然死刑？そんなテーマの中、

坂和：「多数を殺した残虐非道な殺人罪だから死刑があれば死刑。しかし、ノルウェーに死刑があるのかどうかは知らない。死刑はないかもしれない、多分ないでしょう。」

莫言：「白檀の刑でやったら？」（一同爆笑！）

坂和：「白檀の刑」は莫言の小説に書かれているとおり何とも残虐な刑罰だから、死刑の有無にかかわらず現代社会ではありえないが、人間としての感情からは、「白檀の刑」を支持したい。

8 . 中国の権力闘争は？

（1）以上のように夕食後のリビングルームでの議論は大いに盛り上がったが、ここで、ゆっくり温泉に浸かりたい莫言と毎日サウナに入りたい私、そして妻の員子は、再度地下1階の豪華な露天風呂に入りに行くことに。他方、購入して間もないアイパッドの情報に関心が高く温泉にはあまり興味のない毛丹青は、1人で部屋に残ると意思表示。そんなわけで、バスの中と同じくその後の約1時間は四人四様の過ごし方を。

（2）約1時間後に坂和と莫言がリビングルームに戻ると、ちょうどテレビは「ニュースステーション」の時間で、中国浙江省温州市で起きた高速鉄道の脱線事故を報道中。転覆列車を重機で潰し、それを掘った穴の中に埋め込む作業をしている映像が流れるや全世界は唖然としたが、そのわずか1日か2日後に穴の中に埋めた転覆列車を再度戻すことにしたとのニュースに全世界は再度唖然！そんな動きについてニュースステーションは、「これは中国共産党内部の権力闘争の前兆か？」と解説していた。この時点で、毛丹青のアイパッドに寄せられた中国のツイッターである「微博」の件数は1000件を超していた。こ

の事件については既に莫言も一定の発言をしていたらしいから反響は当然だが、その数の多さとスピードの速さにビックリ！

(3) アイパッド情報をチェックしながら「ニュースステーション」を見ていた毛丹青が、これは中国内部、共産党の話がニュースされている。熾烈な権力闘争が展開され、この事故が政争の道具になってしまうと分析した。これに対して坂和は 現国家主席の胡錦濤は共青团、 今瀕死の病床にあるらしい江沢民は上海閥、 現国家副主席で、次期国家主席候補の習近平は太子党、という三者の対立構造だ。そこでの最大のポイントは人民開放軍がどっちにつくかということ。そして、習近平は人民解放軍に近い。なぜなら彼の嫁さんは歌手だからだ、と坂和の知識を披れきした。

以上